

2020年度 需要予測

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2020年度は、公表されている政府、民間の経済見通し及び主要需要産業の2020年度の景気動向予測、並びに主要メーカーへのアンケート結果から前年度比97.8%（1,273千トン）と予測した。

2019年度需要実績見込の予測数量を1,302千トン（前年度比98.2%）として計算。

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）	
建 物	338	98.6%	増税による下押し圧力が小さくなり再開発需要等に期待するも、五輪期間の建築工事ストップ、新築着工減、人手不足等により前年度比マイナス推移を予想。	
建築資材	65	98.2%	中長期的には大阪万博やリニア新幹線など大事業に向けた再開発投資は期待されるも、20年度は住宅着工件数が逡減し、五輪終了後には非住宅需要も縮小すると見られ、マイナス予想。	
構造物	72	99.1%	五輪期間の工事ストップや五輪需要の終了などにより前年を少し下回る予想。国土強靱化計画では橋梁や湾岸設備の腐食対策が急務とされており、塗替え需要に繋がることを期待したい。	
船 舶	106	97.4%	新造船向けは建造数減少により前年度比マイナスを予想。修繕船はSOx規制により入渠が増えて塗料需要増に繋がることを期待する。全体としてはマイナス予想。	
道路車両	新車	224	96.0%	自動車国内販売数は減少見込の声もあり塗料需要はマイナスを予想。モビリティ革命による都市構造変化や若年層クルマ離れの塗料需要への影響を中長期的に見て行く必要あり。
	補修	32	98.6%	高齢者ドライバーによる事故問題もあり衝突防止機能の拡充と高度化は一層進み、緩やかに補修塗料の需要減少が続くと予想される。
電気機械	32	98.7%	消費マインド冷え込みの回復が待たれる中、時短ニーズから大型白物家電等の特定分野の需要は見込めるものの、設備投資は漸減し強い上振れとなる需要は見通せない。	
機 械	49	95.8%	日本建設機械工業会は2020年度出荷額を前年度3%減と予測、アジア需要は上向くが欧州需要は鈍ると見る。工作機械はグローバル需要成長するが国内は自動車減産により縮小を見込む。	
金属製品	96	98.1%	鋼製家具は引き続き都市再開発に伴うオフィス需要により好調を維持すると予想。住宅・非住宅の着工逡減等によりカラー鋼板需要は低下を見込む。全体として前年度比マイナスの予測。	
木工製品	14	98.0%	木製家具の廉価輸入品が増加し、国内出荷数量はこの数年間減少傾向にある（経産省統計）。さらに新築住宅着工件数の減少により厳しい状況は続き、前年度比マイナスの予想。	
家庭用	26	98.8%	ホームセンターやイーコマースでの販路開拓、販促の工夫、新製品投入など各社は市況活性化に注力するも、消費増税による消費マインドの冷え込みによりマイナス予想。	
輸 出	60	97.7%	需要分野によってグローバルな需要回復によりプラス推移の予想はあるものの、中国・アジア経済の減速が続くことが見込まれ、全体としてはマイナス推移の予想。	
路面標示	79	101.2%	大幅な需要増加は見込めないものの工事物件は底堅い需要が見込まれ、前年度を少し上回ると見る。	
その他	79	95.0%	塗料の需要先によっては大幅なプラス予測もあるが、全体として前年度マイナス予測となった。	
合 計	1,273	97.8%	内需の底堅さ（経済対策や再開発需要）に期待するも、五輪期間工事ストップ、五輪需要の反動、世界経済減速などの懸念から需要はマイナスを予測。 3月23日追記：本調査は2月上旬に実施したため、新型コロナウイルスの影響は織り込まれていない。2020年度は今回の予測値を下回る見込み。	